

- 千葉市は、森林所有者の自助努力によって整備が期待できない森林について自然災害等による施設被害を未然に防ぐため森林等の安全対策に取り組んでいる。
- 令和6年度は特殊地拵え6.62ha、植栽3.47ha、下刈13.58haの森林整備を実施した。

## 事業内容

### 森林整備（特殊地拵え・植栽・下刈）の実施

#### ・ 特殊地拵え

台風等の被害森林で被害木を含めた立木を皆伐、枝葉等を整理し植栽やその後の保育を実施するための基盤整備

#### ・ 植栽

特殊地拵え施業地において、原則2年以内に苗木（ナラ・クヌギ等）の捕植

#### ・ 下刈

植栽施業地において、植栽木の生育に障害となる雑草木の刈払い

【事業費】 37,675千円（うち森林環境譲与税22,807千円）

【実績】 特殊地拵え： 6.62 ha、植栽： 3.47 ha、下刈： 13.58 ha

## 取組の背景

- 千葉市では、令和元年台風15号により、風倒木が周辺の道路や電線等（以下「重要インフラ施設」）に被害を与え、大規模停電の発生や重要インフラ施設の早期復旧の妨げとなった。
- 自然災害等による施設被害を未然に防止するとともに、既に自然災害等により被害を受けた森林について、風倒木の残地による病害や二次被害を防ぐため、令和2年度から優良森林整備事業を実施している。



（地拵え前の状況）



（地拵え後の状況）

## 工夫・留意した点

- 森林の管理は原則森林所有者の責務であるが、森林の伐採等の管理は費用負担が大きいことから、国・県の補助事業の活用や市の補助事業で実施することで、森林所有者に負担のかからない枠組みで実施した。
- 森林所有者と協定や覚書を締結し、事業実施後10年間は転用を認めず、下刈等を実施することで適正な維持管理を行う。

## 取組の効果

- 特殊地拵え6.62ha、植栽3.47ha、下刈13.58haを実施し、過去の災害により被害を受けた森林の早期復旧と、今後発生し得る災害によるインフラ施設等への被害の未然防止のための森林整備に寄与した。

## 基礎データ

①令和6年度譲与額：128,520千円		②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 千葉市は、森林ボランティア団体が参加実施する人材育成研修に対し支援しており、市民参加による森林の保全管理の推進に取り組んでいる。
- 令和6年度はチェーンソーを用いて行う伐倒木等の業務に関する研修や刈払機取扱作業者の安全衛生教育に関する研修への支援を実施した。

## 事業内容

### 森林ボランティア推進事業

- ・ 市民の森林に対する保全意識の高揚を図るとともに、市内の里山を中心とした森林の保育管理に市民が参加できる体制にするため、基礎知識の習得や知識の提供を行うことにより、市民参加による森林の保全管理を推進する。

【事業費】179千円（全額森林環境譲与税）

【実績】8名参加

## 取組の背景

- ・ 森林ボランティア団体においては、会員の高齢化と会員数の減少が課題である。
- ・ チェーンソーや刈り払い機などを用いた本格的な森林整備作業を目指す会員の確保に向けて、千葉市では令和2年度から森林ボランティア団体が参加実施する人材育成研修について支援している。



（研修受講時の様子）



（研修受講後の施業時の様子）

## 工夫・留意した点

- ・ 森林ボランティア団体会員の人材育成を図るために、R2年度に「千葉市里山の保全管理団体報奨金交付要綱」を改正し、各種研修に係る参加経費を助成対象とした。
- ・ 当該報奨金の活用について、ボランティア団体の各種イベントや会議等の場でPRに努めた。

## 取組の効果

- ・ ボランティア団体の新規会員を中心に研修会に参加した結果、伐倒作業技術や作業時の安全意識の向上を図ることができた。
- ・ 民有林整備（間伐等）の担い手として、林業事業体（千葉市森林組合）との連携強化を図ることができた。

## 基礎データ

①令和6年度譲与額：128,520千円		②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より

- 千葉市は、「千葉市内の公共建築物等における木材利用促進方針」を策定し、地域産材を利用した木質化等の取組を推進している。
- 千葉市内の小中学校の図書室に県産材を活用した閲覧用机を設置した。

## 事業内容

### 木製製品の購入

- 千葉市内小学校 1 校・中学校 1 校の図書室に千葉県産材（ヒノキ）を活用した閲覧用机を設置した。

【事業費】3,841千円（うち森林環境譲与税3,560千円）

【実績】木製閲覧用机 9基×2校

## 取組の背景

- 千葉市では、「千葉市内の公共建築物等における木材利用促進方針」を策定し、地域産材を利用した木造化・木質化等を促進することにより、市民にやすらぎとぬくもりのある健康的で、快適な学習空間を提供するとともに、循環型社会の構築や地球温暖化の防止、林業・木材産業の振興、森林の再生などに資する取組みを推進している。
- また、「千葉市環境教育等基本方針」に基づき、児童・生徒に循環型社会の構築や地球温暖化の防止、林業・木材産業の振興、森林の再生などに係る森林環境教育を実施する。



（木製閲覧用机）



（環境教育実施の様子）



千葉県産のヒノキで作りました

（県産材使用の刻印）

## 工夫・留意した点

- 木材は、県産木材ヒノキの間伐集成材を使用した。
- 机には、県産木材を使用していることが分かるよう刻印した。
- 学校が発行する「図書だより」において、森林環境譲与税を活用し、県産材で作製した机を図書室に設置したことを周知した。
- 中学校全クラス176人に対し、林野庁や千葉県HPを参考に、森林環境譲与税、森林に関する環境教育を実施した。
- 小学校では、森林に関する本の紹介を行い、環境教育を行った。

## 取組の効果

- 設置した木製製品へ県産木材を使用したことで、木材利用と県内の森林整備の促進に寄与した。
- 県産木材を使用していることが分かるよう刻印し、周知することで森林整備の普及啓発と児童・生徒への環境意識の醸成を図った。
- 図書館だよりにより森林環境譲与税を活用した事業であることを表示し、児童生徒だけでなく、保護者への森林環境譲与税の使途及び森林整備の重要性についての普及啓発、理解促進に寄与した。

## 基礎データ

①令和6年度譲与額：128,520千円		②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より



- 千葉市では、森林ボランティア団体が市民を対象に実施する森林体験イベント等の普及啓発活動の経費について支援している。
- 令和6年度は里山の樹木観察、木工体験、植樹体験に係るイベントに対する経費への支援を実施した。

## □ 事業内容

### 森林体験イベント

- ①里山の樹木観察：里山の林内を歩きながら木々の様子を観察
- ②木工体験：竹切り体験、竹を使用した木工小物づくり
- ③植樹：広葉樹やスギ・ヒノキの苗木を植樹

【事業費】28千円（全額森林環境譲与税）

【実績】16組42名参加

## □ 取組の背景

- 令和5年4月本市の森林、林業の特徴を踏まえた森林整備の基本的な考え方を示した「千葉市森林整備計画」を樹立し、地域の実情に即した森林整備の推進に取り組んでいる。
- 「千葉市森林整備計画」において、「地域住民参加による取組に関する事項」を定め、林業従事者の高齢化、後継者不足により、森林施業の実施が遅れている状況を鑑み、森林ボランティアの拡大のために普及啓発活動に努める旨を規定している。



（森林イベント開催時の様子）

## □ 工夫・留意した点

- 森林ボランティア団体の普及啓発を図るために、「千葉市里山の保全管理団体報奨金交付要綱」を策定し、森林ボランティア団体が行うイベントに必要な経費を助成対象とした。
- 木工体験については大人も子どもも参加できるワークショップ形式にて実施した。

## □ 取組の効果

- 参加者からのアンケート結果等から「木の倒れる振動が伝わり、命の大切さを感じることができた」、「友達に伝えたい」といった感想もあり、子どもたちだけでなく、親世代への森林整備の重要性についての普及啓発のきっかけ作りとなった。

## ◇ 基礎データ

①令和6年度譲与額：128,520千円		②私有林人工林面積（※1）：1,854ha	
③林野率（※1）：20.7%	④人口（※2）：974,951人	⑤林業就業者数（※2）：59人	

※1：「2020農林業センサス」より、※2：「R2国勢調査」より